

# 普及指導員調査研究報告書

課題名：やまぐちオリジナルリンドウ「西京の初夏」におけるジベレリン処理の影響

農林総合技術センター 技術指導室 担当者氏名：篠原裕尚

## <活動事例の要旨>

山口農林総合技術センターで育成された、やまぐちオリジナルリンドウ「西京の初夏」は、極早生のリンドウで定植時のジベレリン処理により越冬後の株の露出（高芽）発生の影響が懸念されたため調査研究を実施した。

### 1 普及活動の課題・目標

リンドウ栽培では、定植から1年は株養成期間と位置づけられており、株養成促進技術として定植直前の苗へのジベレリン処理が普及している。しかし、やまぐちオリジナルリンドウ「西京の初夏」は、極早生のリンドウで、越冬芽が株の高位に着生する奇形（以下、「高芽」）がジベレリンの副作用により助長されている可能性が指摘された。

そこで、ジベレリン処理方法と越冬芽形成の関係を明らかにし、越冬芽形成への副作用の低減と株養成効果の維持、向上について、生産者や関係機関と連携しながら検討を行う。



西京の初夏 高芽症状

### 2 普及活動の内容

(1) ジベレリン処理による生育への影響について

- ①対象地域：県内6ヵ所（柳井、周南、山口、美祢、下関、萩）
- ②試験区の構成（ジベレリン濃度は100ppm）
  - ・ア：定植直後散布区 イ：無処理区 ウ：定植30日後散布区
  - ・調査期間：平成26年6月～平成27年3月
- ③調査項目：定植後生育調査（6～11月）（草丈、茎数）  
越冬芽生育調査（1月）（芽数、最大芽幅長、露出株高）

(2) リンドウ生産者への普及推進

- ・実証ほ調査、先進地視察研修結果を生産者、JA、市場関係者で構成する山口県リンドウ研究会で報告し、普及推進を図った。

### 3 普及活動の成果

(1) ジベレリン処理による生育への影響について

① 定植後生育調査結果

ア 草丈調査結果（図1）

- ・定植直後散布区は、定植直後から伸長し、8月には開花ピークを迎え、9月以降2番花が伸長してくる
- ・無処理区は、6月まではあまり伸長しないが、7月以降伸長を始め、10月ごろ開花する。
- ・定植30日後散布区は、散布後伸長を始め草丈は44cm以上ともっとも長くなり、9月に開花ピークを迎えた。

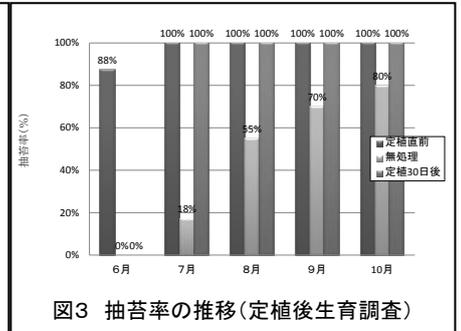
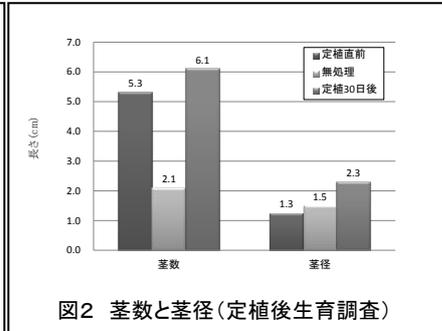
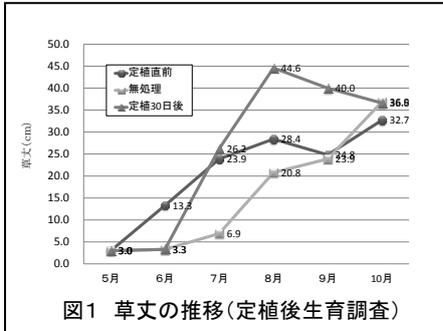
イ 茎数・茎径調査

- ・定植直後散布区は、6月に抽苔してくるものは、茎数は5.3本、茎径は1.3cmとなった。

- ・無処理区では、茎数は2.1本、茎径は1.5cmとなった。
- ・定植30日後散布区では、茎数6.1本、茎径2.3cmとなった。

#### ウ 抽苔率調査

- ・定植直後散布区は、散布後ほぼ100%抽苔してくる。
- ・無処理区は、散布して2ヶ月は抽苔してこない、秋口には70~80%まで抽苔率は増加する。
- ・定植30日後散布区は、散布後1ヶ月後には、ほぼ100%抽苔する。



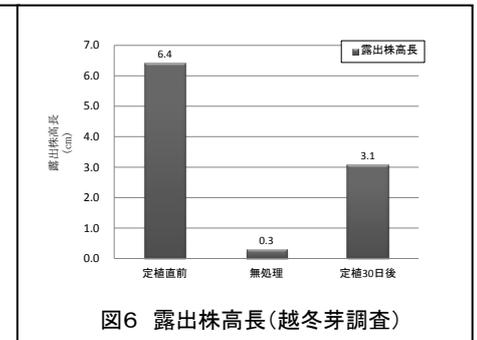
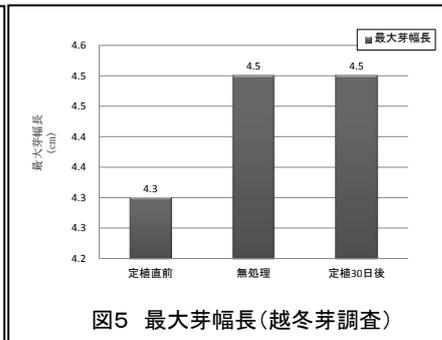
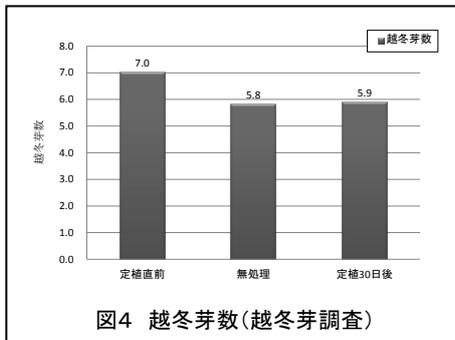
## ② 越冬芽生育調査結果

### ア 越冬芽数・最大芽幅長調査 (図4, 5)

- ・定植直後散布区は、越冬芽数は7.0本、最大芽幅長は4.3cmと芽数は多いが、芽の大きさは小さかった。
- ・無処理区は、越冬芽数は5.8本、最大芽幅長は4.5cmとなった。
- ・定植30日後散布区は、越冬芽数5.9本、最大芽幅長は4.5cmとなった。

### イ 露出株高 (高芽) 調査 (図6)

- ・定植直後散布区は、露出高が6.4cmと最も高くなった。
- ・無処理区は、露出高が0.3cmとほぼ株の露出はなかった。
- ・定植30日後区は、露出高が3.1cmとなった。



## (2) 栽培マニュアルの改訂

### 調査結果の考察

- ・やまぐちオリジナルリンドウ「西京の初夏」に関しては、ジベレリン処理は、初期生育を高める上では重要であるが、高芽発生率を低減させるためには、散布しない方がよいと考えられる。
- ・「西京の初夏」は極早生品種であり、標高の低い本県においては、定植初年度の散布は控え、経年株への散布については、今後調査が必要と考える。
- ・調査結果をふまえ「西京の初夏」栽培マニュアルを改訂する。

## 4 今後の普及活動に向けて

- ・極早生品種「西京の初夏」以外の既存品種では、ジベレリン処理の効果が認められているため、生産者が混乱しないよう留意が必要である。